

# 大名美恵子です

東海村村松 2401-2 電話・fax 284-0761  
携帯電話 090-3961-8578  
E-mail [toukai@oona-mieko.info](mailto:toukai@oona-mieko.info)

## 総合体育館で卓球をされているグループを訪ねました

一段と暑さが厳しい今年。総合体育館で卓球をされている方から「ぜひ見に来てください」とお話がありました。以前から要望しておられたというネットは試合等で使用する台数分新しいネットに交換されていました。ネットをとめる金具は錆びたモノが多く、プレーに影響はないのか、今後確認していきたいと思いました。



そして大変気になったのは、体育館に空調がないという事でした。体育館の利用者は子どもさんから高齢者まで村内外のあらゆる層の方々です。利用の目的と思われる心身の健康づくりのためには、どうしても空調は必要なのではないでしょうか。休憩時間、汗びっしょりになって休んでいるみなさんの声も伺いましたが、「ぜひ空調の設置を!」この声を役場に届けました。

## 7月19日、東海第二原発の取水口防潮堤の不良工事部分を見てきました

議会の原子力問題調査特別委員会は、19日、東海第二原発で行われている新規規制基準対応の工事で、大きな不良があった部分を視察してきました。原電自ら「安全対策工事の要」の工事と言ってきた部分です。写真ではなく実際にむき出しになった鉄筋、鉄筋カゴが70cm高どまりしていることを知ることができる場所などを見ましたが、「原子力発電所の防潮堤工事でこんなことがあっては絶対にならない」、改めて強く思いました。



原電は、設計に関する補正申請書を提出し、規制委員会の理解が得られず「やり直しも含めて検討」を求められました。今重要なのは、これ以上費用もかけて工事のやり直し等を検討するなどではなく、まず「廃炉にする」ことを決めて、廃炉措置に必要、相応しい対策をたてることではないでしょうか。

北側の防護壁の基礎部分を足場から視察する首長ら。コンクリート壁の一部で鉄筋が露出しているのが見える＝東海村で(代表撮影) ⇒ 5月28日付東京新聞より。村議会もこの場を見てきました。

### 視察後に大名が質問した内容をご報告いたします。

①盛土の山について、福島第一原発の事故によって放射能の影響を受けていないのか。

答：北側の盛土については、表層部の土砂は極僅かで、ほとんどは地下から掘ったもの。福島第一の事故により影響を受けるのは地表面の土であるため問題はないと考える。

②鋼製防護壁の不具合事象について、何があったがために起きたことなのか。請負工事会社に問題があったのか。計画・設計に問題があったのか。

答：鋼製防護壁の施工に関して何が問題だったのかについて、地下水位が高いことが要因の一つと考えているが、工事の計画段階でも予想はしていた。溝を切って安定液を入れている時間が長いと影響がでてしまうということに気が付かなかった。責任については請負会社と協議をしている。

③6/18に規制委員会が「地中連続壁の作り直しも含め検討」を求めたと聞かすが、作り直しとはどのようなことなのか。

答：対策として二つ考えられる。一つは中実部だけで同じ強度を持たせる方法。もう一つは、地山側の外側に新たな土留めをつくって、不具合のあった地中連続壁を撤去した後、再施工する方法。現在、検討中である。